

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103300号
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズガーデン
訪問調査日	平成 21 年 11 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 26 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103300号		
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー		
事業所名	グループホーム ローズガーデン		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 下荒田 2 丁目 34番15号 (電話) 099-213-0033		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年11月24日	評価確定日	平成21年12月26日

【情報提供票より】(21年10月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤12人	非常勤4人 常勤換算15.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての 2 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護 1	1 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	5 名
要介護 5	4 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有馬胃腸外科医院	竹迫歯科医院
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市中心街の住宅地に母体医療法人をバックに当グループホームがあり、居宅介護支援事業所・デイサービス・通所リハビリテーションが併設され、連携や協力関係が築かれている。開設して7年目を迎えたホームは、暖かな家庭の雰囲気をかもしだしている。職員は「その人の思い」「その人の状態に合わせた個別ケア」で、細やかな支援をしている。地域との交流を目指して、「職員の認知症に対する介護ケア」と「認知症について」の冊子をまとめて情報を発信している。この取り組みは家族・行政担当者や地域に評価されており、地域密着型サービスの充実を展開しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重 点 項 目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価での改善課題としては無い。ホーム独自の課題を設けて職員は改善に取り組み、サービスの質向上に活かしている。
重 点 項 目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義をふまえ、自己評価は全職員でユニット毎に取り組み、職員の意識向上に繋がっている。重度化していく利用者に対するケアのあり方を職員で検討し、具体的な改善に取り組んでいる。
重 点 項 目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	併設事業所と合同で定期的に開催している。地域との関わりに、地域とふれあいコンサートを開催したり、認知症ケアの実践例集を配布して、評価を受け、理解と協力が得られている。
重 点 項 目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	勉強会へ家族の参加を呼びかけたり、アンケートを行ったり、面会時に意見や要望を引き出す工夫をしている。出された意見は、日誌に記録して職員で検討し、運営に反映している。
重 点 項 目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。認知症についての冊子の発刊やホーム便りの配布を行い、地域住民との深い交流ができている。中学生の職場体験や演奏会・バザーへの招待・交流室の開放・文化祭時の作品出店など、交流が盛んに行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく尊厳を持って、地域の一員として生活が送れることを目指した理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示を職員室・リビングに掲示し、意識付けが図られている。毎日のミーティング時に唱和し、日々のケアに活かしている。		
3	6	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。認知症についての冊子の発刊やホーム便りの配布を行い、地域住民との深い交流ができている。中学生の職場体験の学習の受入れや演奏会・バザーへの招待・交流室の開放・文化祭時の作品出品など、交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をふまえて、自己評価は全職員でユニット毎に取り組み、職員の意識向上に繋がっている。重度化していく利用者に対するケアのあり方を職員で検討し具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設事業所と合同で定期的に開催している。地域との関わりについて協議を行い、地域とふれあいコンサートを開催したり、認知症ケアの実践例集を配布して、地域から評価を受け、理解と協力が得られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に、随時ホームの取り組みや課題などを伝え、相談を行い連携を図っている。行政も、積極的に助言や協力をを行い、共に質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしづらりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りや個別報告・来訪時・電話連絡などで、日々の暮らしづらりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳で管理し、原本を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	勉強会へ家族の参加呼びかけやアンケートを行ったり、面会時に意見や要望を引き出す工夫をしている。出された意見は、日誌に記録して職員で検討し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し、運営者・管理者は離職を最小限に抑えるよう努めている。やむを得ない異動の際には新人研修と職員の連携を図りながら入居者のダメージを防ぐように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書ができており、段階に応じた研修に交替で参加し研修報告を行い、職員は共有できている。内部研修は事例を通した研修報告を行い資質向上を図っている。資格取得についてもチャレンジする職員に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市協議会に参加しており、研修会には全職員交替で参加している。近隣のグループホームとは研修の一環として相互訪問や交流を重ね、相談連携を図れる関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、病院や自宅に面会に行き、利用者の生活歴や思い等を十分に聞いている。見学や併設の通所を利用してもらい、不安なく入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で、その人の特技の洗濯・炊事・裁縫・花の水やり等を一緒に行ったり、外出から「ただいま」と言って帰宅するなどの、入居者の言葉に職員は、感動と元気をもらいつながら日々を共にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に話しかけたり、行動・ジェスチャー・筆記・表情などで、思いや意向を把握している。利用者の意向に応えられるように、家族等にも協力をもらいつながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、主治医・職員の意見を活かした、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと月1回のモニタリングを行っている。入居者の状態変化や退院時はその都度介護計画を見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の状況や要望に応じて、病院受診や自宅訪問・理美容院送迎・特別な外泊など、必要な支援を柔軟に行ってている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、家族等や医師・看護師・職員を交えて話し合いを行い、指針を定めて職員も共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るために、関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人の意向や状況に応じ声かけをしながら、本人のペースに応じた柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を献立に取り入れ、調理の下ごしらえや下膳・皿洗いなど、職員と一緒に行い、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴を基本にしているが、入居者の心身の状況に応じ柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や特技・趣味などに応じ、仏壇の花かえや水やり・食前のあいさつ・金魚の餌やり・新聞や読書など、好きな事に力を發揮できるように支援している。喫茶店や外食・理美容院へ出かけるなど、気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのそこの日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や屋上での日光浴・買物・外食・喫茶店に出かける等、支援している。地域の行事や学校のイベントへの参加・花見など、戸外に出る機会作りを工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	都市型の住環境を踏まえたグループホームで、職員はインターホンと職員の細やかな見守りで、一人ひとりの行動を把握して、自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の協力のもと、定期的に昼・夜間想定、消火器・設備機器の取り扱い、通報、避難訓練を実施している。非常災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士で作成した献立を基に、栄養バランスの取れた食事を提供している。個別の食事・水分量を記録し把握している。身体状況に応じた食事形態の工夫もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で明るく清潔で温度・換気に配慮がなされ、季節行事の飾りや花に囲まれて、入居者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみ・三味線・ラジオ・寝具・置時計・神棚・車椅子など、使い慣れた物品や好みのものが持ち込まれている。のれんやマット・滑り止めなどの工夫があり、安心して過ごせる居室作りである。		

※  は、重点項目。